

44  
45  
46

## 坐摩神社 明治天皇聖躅 樟樹句碑

中央区久太郎町4丁目渡辺3号

- ▶ 坐摩神社は五柱の神様(生井神、福井神、綱長井神、波比岐神、阿須波神の五柱)である。このうち、先の三柱の起源は、名前からして井戸の神様と思われます。生井とは「井戸が出来る」、福井とは「井戸が栄える」の意味、綱長井は「釣瓶を吊るす綱が長くなるほど深い井戸」と考えられます。そして、残りの二柱の波比岐神、阿須波神は、古事記によると、素戔鳴尊の子供である大年神(稲の神様)が天知迦流美豆比売(あまちかるとみずひめ)との間にもうけた子供となっています。波比岐神は「端引き」の意味で、土地を区画する意味であるという説があります。本居宣長も『古事記伝』の中で屋敷神だという説を述べています。
- この坐摩神社に明治天皇が慶応4年4月17日に行幸され、参拝されています。
- また、藤沢薬品工業(株)初代会長の藤沢友吉氏の句碑が建っています。「神鏡に樟のかげさす初旭哉」が刻まれ、碑の頭部に方角が刻まれています。

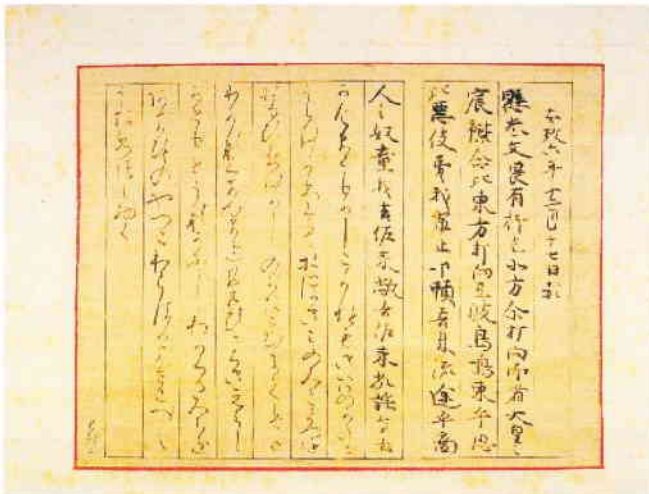


47

## 佐久良東雄寄寓跡

中央区久太郎町4丁目渡辺3号(坐摩神社内)

- ▶ 佐久良東雄は、文化7年(1810)常陸国浦須村で生まれ、幼時から仏門に入り、観音寺の僧 康哉に師事を受けます。その康哉の臨終の際、天皇への忠誠こそ報恩の証しだと諭されます。水戸藩 藤田東湖から水戸藩への仕官の誘致を受けますが断ります。その後、皇国を護るには仏門より神道だと考え、弘化2年(1845)、大坂泉州池上の豪農 南 繁信 邸内の枯草庵に移り住み、学問を行います。弘化4年、坐摩神社境内のほとりで国文学や和歌の講義を始めます。下記の長歌は、安政6年(1859)12月17日の詠であって、尊王攘夷の熱誠が読み取れます。



水戸藩士 高橋多一郎父子から匿って欲しいと頼まれ、生国魂神社の神官(常陸 笠間藩士) 島 男也を紹介しませす。高橋らは水戸藩、薩摩藩による大坂挙兵を計画しますが、町奉行所へ事前に漏れ、万延元年3月23日、一斉に捕縛されます。佐久良東雄も捕えられ、江戸伝馬町の牢獄に放り込まれます。牢で幕府の飯は食えぬと断食を貫き、同年6月獄死します。50歳でした。

### <桜田門外の変と大坂挙兵計画>

井伊大老の強引な政治に不満を持つ水戸藩、薩摩藩を中心とした志士たちが、江戸で井伊大老を倒し、大坂で挙兵し天朝を奉じ、幕政改革を行おうという計画がありました。江戸では万延元年3月3日、桜田門外の変で知られるように井伊大老の暗殺に成功。しかし、大坂では土壇場で薩摩藩が慎重策に变じ、事が進まなくなりました。大坂東町、及び西町奉行所の知るところとなり、水戸藩士を中心とした志士たちが捕縛されました。生国魂神社の島 男也宅にいた水戸藩士 高橋多一郎、庄左衛門父子、川崎孫四郎らは自刃。その他多数が捕えられています。



## 48 松尾芭蕉終焉の地

中央区久太郎町 1-2-48(南御堂前御堂筋)

- ▶ 松尾芭蕉は、正保元年(1644)に伊賀上野の赤坂で生まれます。数々の俳句を世に残しました。元禄7年(1694年)9月8日、大坂に向けて伊賀上野を旅立ち、9日大坂に到着しました。門弟に2通の書簡を書いた9月10日の晩、芭蕉は悪寒・頭痛に襲われ、この日から10日間ほど同じ症状を繰り返しました。10月に入ると病状はいよいよ差し迫り、芭蕉は、南御堂前の花屋仁左衛門の貸座敷に移されます。8日の夜更け、「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」を病中ながらも句を詠む気力も見せましたが、10日の暮方から様態が急変しました。死に際を悟った芭蕉は、同日、兄半左衛門宛に自らの手で遺書を認めた後、門人たちへの遺書を代筆させました。10月11日、朝から食を断って不浄を清めていた芭蕉のもとへ、其角が駆けつけました。その夜、芭蕉は永久の別れをして門弟たちの夜伽の句を耳に残し、翌12日申の刻(午後4時ごろ)、51歳でその生涯を閉じました。



東京深川にある松尾芭蕉像

## 49 東横堀川

中央区

- ▶ 土佐堀川から分流し、中央区島之内2丁目南東で道頓堀川となるのが、東横堀川です。文禄3年(1594)に開削。かつて大坂の街は、網の目のように堀川がめぐらされ「水の都」と呼ばれていました。大阪地下鉄の駅名で一番使用されている漢字が「橋」であるという事からもよくわかります。たくさんあった堀川は、昭和20年~30年代に次々と埋め立てられ、今では、この東横堀川、道頓堀川など、数えるほどしか残っておらず、これらは貴重な川といえます。



## 50 井原西鶴文学碑

中央区内本町橋4

- ▶ 井原西鶴は松尾芭蕉と同時代に活躍した人です。昭和47年に建てられた「日本永代蔵」の一節が刻まれた文学碑です。井原西鶴の出生については、不明な点がありますが、寛永10年(1642)、大坂で生まれました。15歳の時、俳諧に興味を持ちます。43歳の時、住吉神社で行われた「矢数俳諧興行」で一昼夜かかって23,500句を詠むという大記録を作っています。この記録は、1分間に平均16句を詠んだ事になります。その後、「好色一代男」「日本永代蔵」「世間胸算用」などの代表作を残します。





## 51 義侠 天野屋利兵衛之碑

中央区内本町橋 4

- ▶ 昭和14年、近衛文麿の書により建てられた碑です。碑文に「利兵衛は名を直之といい、大坂の人、大石良雄から義士復讐の密議を聞き、兵器一式を揃え功績を挙げた。晩年は京に入り、松永土斎と改名し、椿寺で一生を終えた」と記されており、お芝居などで「天川屋義平(天野屋利平衛のモデル)は男でござる」という台詞は有名です。天野屋は代々、北組惣年寄を務め、四代目の利兵衛直克は、元禄3年、惣年寄になりますが、同8年役を免ぜられています。実在したと思われませんが、赤穂事件に関する公文書などには、天野屋利兵衛に関する記録が出てこない事から、赤穂義士とは関連がなかったと思われます。つまりお芝居によって創作された人物ということでしょう。



## 52 西町奉行所跡

中央区本町橋 2-5(マイドーム大阪)

- ▶ 大坂には、東町奉行所と西町奉行所がありました。江戸の北町奉行所、南町奉行所と同じく1ヶ月交代で町の取締りを行っていました。西町奉行所は、はじめ東町奉行所と同じ場所にありましたが、享保9年(1724)の大火で焼失し、同年よりこの地に西町奉行所が置かれました。西町奉行所の碑は2つあります。下記①の写真は、北向きの一方通行道路沿いにあり、昭和42年に建てられています。写真②は、松屋町筋沿いにあり、大正期に建てられています。

西町奉行所碑①



西町奉行所碑②



## 53 大阪府立貿易館跡

中央区本町橋 2-5(マイドーム大阪)

